

VITEK MS によって早期同定報告に至った *Fusarium* sp. 菌血症の 1 例

◎山田 優也¹⁾、内田 圭一郎¹⁾、小塩 智康¹⁾、川畑 典子¹⁾、岡田 紗奈¹⁾、難波 真砂美¹⁾、津浦 幸夫¹⁾、中村 典彦²⁾
横須賀共済病院 中央検査科¹⁾、横須賀共済病院 血液内科²⁾

【はじめに】*Fusarium* 属菌は糸状菌の一種であり、角膜や爪など表在性感染症を起こすことが知られている。近年では造血器疾患を有する患者における播種性感染症の報告があり、そのほとんどは死亡転帰をとっている。今回、我々は急性リンパ性白血病（以下 ALL）加療中に *Fusarium* sp. による血流感染症を発症し、救命し得た症例を経験したので報告する。

【症例】20 代、女性。20XX 年 3 月より ALL と診断され、当院にて入院加療を行っていた。第 25 病日に顔面、両側上肢、大腿に皮疹が出現し、第 28 病日に β -D glucan の上昇を認めたため、MCFG を投与開始。第 30 病日血液培養から *Fusarium* sp. が検出されたが、感染経路は不明であった。第 32 病日に抗菌薬適正使用支援チーム（以下 AST）によるカルテ診が行われ、L-AMB と VRCZ 併用へ変更された。第 47 病日に皮疹に対する皮膚生検より菌糸構造及び酵母構造を認めたが、炎症反応の改善とともに軽快へ向かった。

【微生物学的検査】第 24 病日に血液培養が提出され 2 セットとも好気ボトルのみが培養 4 日後に陽転し、グラム染色

にて酵母様真菌と菌糸が認められた。培養液をカラー *Candida* 寒天培地（極東製薬工業株式会社）に塗布し、35°C 好気条件下で培養した。培養 2 日後に糸状菌様コロニーが形成された。セロテープ法では *Fusarium* に特徴的な形態が観察され、質量分析装置 VITEK MS（バイオメリュー・ジャパン株式会社）にて *Fusarium solani* complex と同定された。また、スライドカルチャーによる形態観察では三日月型の分生子が確認された。

【考察】ALL 患者の血液培養から *Fusarium* sp. が検出された症例を経験した。造血器疾患を背景とした *Fusarium* sp. による播種性感染症は極めて予後が不良であり、救命し得た症例は稀である。糸状菌は同定検査に長期間培養を要することが多く、免疫不全患者においては治療の遅れは致命的となる。本症例では質量分析を用いることでサブカルチャー 2 日後に同定報告ができたことと、AST 介入による確実な抗真菌薬の選択が患者の予後に寄与したものと考えられた。（連絡先 046-822-2710、内線 2390）